

YAMAHA

TX1P

PIANO TONE GENERATOR

取扱説明書

このたびは、ヤマハピアノトーンジェネレーターTX1Pをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

TX1Pは、リアルなピアノ系の音が楽しめるAWM方式の音源モジュールです。そのうえ、デジタル機器ならではの様々な機能を内蔵しています。

TX1Pの優れた性能をフルに発揮させると共に、末長くご愛用いただくため、ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みくださいますよう、よろしくお願いいたします。

目 次

ご使用上の注意	2
仕様	3
TX1Pの特徴と概要	3
各部の名称と働き	
フロントパネル	4
リアパネル	5
音を出してみよう	6
機能の設定と活用	
MIDI受信チャンネルの設定	8
マスターチューニング	10
トランスポーズ	11
ノートリミット	12
コーラスプレイ	14
トランスポーズド ディレイ セット&プレイ	14
コードセット&プレイ	17
プログラムチェンジによる音色切替, エフェクトON/OFF	19
メモリーイニシャライズ	20
トラブル対処法	22
MIDIデータフォーマット	23
ブランクチャート	26
サービスについて	27

ご使用上の注意

◆設置場所について

次のような場所でご使用になりますと、故障の原因となりますのでご注意ください。

- 直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど。
- 温度の特に低い場所。
- 湿気やホコリの多い場所。
- 振動の多い場所。

◆無理な力を加えない

キーやツマミ、端子類に無理な力を加えることは避けてください。

◆電源について

- 本機は日本国内仕様です。必ず、AC100V (50Hzまたは60Hz)の電源コンセントに接続してください。AC100V以外の電源では絶対にご使用にならないでください。
- 大型ライトや大出力パワーアンプなど、消費電力の大きな機器と同じコンセントに接続しないでください。また、タコ足配線もお避けください。
- POWERスイッチは、送信機器側から順にONにしてください。
- 電源プラグをコンセントから抜くときは、コード部分の断線やショートを防ぐため、コードを引っ張らないで必ずプラグ部分をもって引き抜いてください。
- 長時間ご使用にならないときは、電源コードのプラグを電源コンセントから外してください。

◆セットの移動

セットの移動は、接続コードのショートや断線を防ぐため、接続コードを取り外してから行ってください。

◆接続について

接続は、各機器の電源スイッチをOFFにしてから行ってください。

◆MIDIケーブルについて

- ケーブルはMIDI規格のものをお使いください。
- ケーブルの長さは15mが限度とされています。これ以上長いケーブルをご使用になりますと、波形の劣化等によりトラブルの原因となりますので、ご注意ください。

◆ケースを開けない

故障や感電の原因となりますので、ケースを開けたり改造したりしないようにしてください。

◆外装のお手入れについて

外装をベンジンやシンナーなどの揮発油で拭いたり、近くでエアゾールタイプのスプレーを散布しないでください。外装のお手入れの際は、必ず柔らかい布で乾拭きしてください。

◆落雷に対する注意

落雷の恐れがあるときは、早めにコンセントから電源プラグを抜きとってください。

◆他の電気機器への影響について

本機はデジタル回路を多用しているため、ごく近くでラジオやテレビなどを同時にご使用になりますと、ラジオやテレビ側で雑音などが生じることがあります。十分に離してご使用ください。

◆バックアップバッテリーについて

本機内にメモリーしたデータ(操作を行い設定したデータ)は、本機内部のバッテリーにより保護されていますが、このバッテリーには寿命(約5年)があり、寿命が来るとメモリー内容は消えてしまいます。お早めに交換されることをお勧めします。

なお、バッテリー交換の際にもメモリー内容は消えてしまいますので、交換前にデータをメモなどに書き写し、交換後に再びインプットしてください。

バッテリー交換は、お買い上げ店、もしくは最寄りの弊社電音サービスセンターにご相談ください。

◆保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きをとってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でもサービスが有償となることがあります。

◆保管してください。

この取扱説明書をお読みにになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

仕様

音源	AWM (Advanced Wave Memory) 音源
同時発音数	16音 (後着優先)
発音音域	A ₋₁ ~C ₇
音色	ピアノ1, ピアノ2, エレクトリックピアノ, ハープシコード, ビブラフォン
エフェクト	コーラス, トランスポーズド ディレイ, コード
メモリー内容	
全音色共通	MIDI受信チャンネル, マスターチューン, コーラスON/OFF, トランスポーズド ディレイON/OFF, コードプレイON/OFF
各音色独立	トランスポーズ, ノートリミット, トランスポーズド ディレイ, コード
コントローラー	MASTER VOLUME
MIDIコントロール	MIDIデータフォーマット参照

ディスプレイ	2桁8セグメントLED
MIDI端子	MIDI IN, MIDI THRU
出力端子	
OUTPUT I, II	モノラルホーンジャック, 規定出力レベル;-10dB, 最大出力レベル;約+10dB 出力インピーダンス;10kΩ以下
PHONES	ステレオホーンジャック, 最大出力レベル;4.5dB, 出力インピーダンス;47Ω以下
電源	AC100V, 50/60Hz
消費電力	8 W
寸法(W×H×D)	480mm×45.3mm×279.5mm (1Uラックマウント仕様)
重量	3.4kg

● 0 dB=0.775Vr. m. s.

● 仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

TX1Pの特徴と概要

★外部MIDI機器の音源として使用

本機は、外部MIDI機器の音源として機能するピアノトーンジェネレーターです。MIDIキーボードやMIDI シーケンサーなどで、本機の音を鳴らすことができます。

★AWM音源を採用

ヤマハのデジタル技術を結集し開発したAWM (Advanced Wave Memory) 方式の音源を採用しています。AWM音源ならではのリアルなサウンドをお楽しみください。ピアノ系の5種類の音色がプリセットされています。

★最大同時発音数16音

最高で16音同時発音が可能です。後着優先ですので、17音以上続いた時は、先の音を消して後の音を鳴らす仕組みです。

★幅広い発音音域

A₋₁~C₇の幅広い範囲で発音可能です。そのうえ、押鍵のタッチの強弱によって、音量をコントロールできます。

★エフェクト内蔵

コーラス, トランスポーズド ディレイ, コードプレイといった3種類のエフェクトがあり、音色ごとに設定可能です。

★設定 (パラメータ値) の変更

マスターチューニングやMIDI受信チャンネルなど、様々な設定が可能です。設定は、まず該当するパラメータの表示にし、次にデータエントリーキーで実際の値を指示するという方法です。

★MIDIコントロール

音量調節や音色の切り替えなど、外部MIDI機器からでも様々なコントロールが可能です。

★オーディオ出力端子

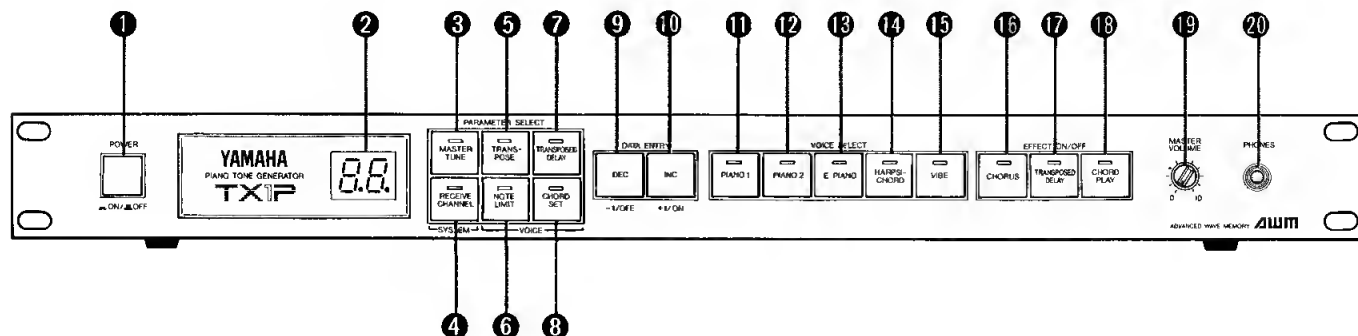
2系統のライン出力端子(OUTPUT I, II)を持っています。なお、コーラス効果をONにした時は、これらの端子からステレオで出力されます。また、ヘッドホンモニターも可能です。

★1Uラックマウント

19インチ1Uサイズです。19インチラックに容易にマウントできます。

各部の名称と働き

■フロントパネル



①POWERスイッチ

電源スイッチです。ONにすると、前回使用していた際の最後の音色が自動的に呼び出されます。
スイッチをONにした直後は、電源投入時のクリックノイズを避けるため、出力信号はカットされます。

②LEDディスプレイ

現在選択されている音色やパラメータ値等を表示する2桁のディスプレイです。
アルファベット、数字、記号などを次のように表示して、表現します。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
A	B	C	D	E	F	G	H	I	K
A	b	C	d	E	F	G	H	.	2
L	O	P	T	V	マイナ	#	オニ		
L	o	P	T	B	-	.	.		

10の位 1の位

●PARAMETER SELECTキー

パラメータの設定を変更する時に押します。キーを押すと、押したキーに対応するパラメータの設定を変更できるようになります。

③MASTER TUNEキー

本機を他の楽器とチューニングする時に押します。設定した値は全音色に共通です。(10ページ参照)

④RECEIVE CHANNELキー

本機 MIDI 受信チャンネルを変更する時に押します。設定した値は全音色に共通です。(8ページ参照)

⑤TRANSPOSEキー

発音させる音の音程を、送られてくる鍵盤情報の音程とずらす時(移調量を変更する時)に押します。設定した値は音色ごとにメモリーされます。(11ページ参照)

⑥NOTE LIMITキー

発音の音域を制限する時に押します。設定した範囲は音色ごとにメモリーされます。(12ページ参照)

⑦TRANSPOSED DELAYキー

トランスポーズド デレイ効果のかかり具合を変更する時に押します。設定した値は音色ごとにメモリーされます。(14ページ参照)

⑧CHORD SETキー

コード効果の和音の組合わせを変更する時に押します。設定した和音は、音色ごとにメモリーされます。(17ページ参照)

●DATA ENTRYキー

パラメータの値等を指定するためのキーです。キーを1回押すと値等が1ステップずつ変化し、押し続けると連続して変化します。

⑨DEC (-1 / OFF) キー

このキーを押すと、値等が小さい方に変化します。

⑩INC (+1 / ON) キー

このキーを押すと、値等が大きい方に変化します。

●VOICE SELECTキー

発音させる音色を選択できます。

⑪PIANO 1 キー

このキーを押すと、ソフトなピアノの音で発音されるようになります。

⑫PIANO 2 キー

このキーを押すと、明るいピアノの音で発音されるようになります。

⑬E. PIANOキー

このキーを押すと、エレクトリックピアノの音で発音されるようになります。

⑭HARPSICHORDキー

このキーを押すと、ハープシコードの音で発音されるようになります。

15 VIBEキー

このキーを押すと、ビブラフォンの音で発音されるようになります。

●EFFECT ON/OFFキー

エフェクト効果をON/OFFする時に押します。キー内のインジケーターが点灯した状態がONの状態です。

16 CHORUSキー

このキーを押すと、コーラス効果がON/OFFされます。コーラス効果は、左右のスピーカーの間を複数の音が揺れ動くような効果です。ON/OFFは、全音色に共通の設定としてメモリーされます。

17 TRANSPOSED DELAYキー

このキーを押すと、トランスポーズド ディレイ効果がON/OFFされます。トランスポーズド ディレイ効果は、時間的に遅延された音が、音程が上がりながら(または下がりながら)発生する効果です。ON/OFFは、全音色に共通の設定としてメモリーされます。

18 CHORD PLAYキー

このキーを押すと、コード効果がON/OFFされます。コード効果は、1つの鍵盤を押ただけで和音が発音される効果です。ON/OFFは、全音色に共通の設定としてメモリーされます。

19 MASTER VOLUME

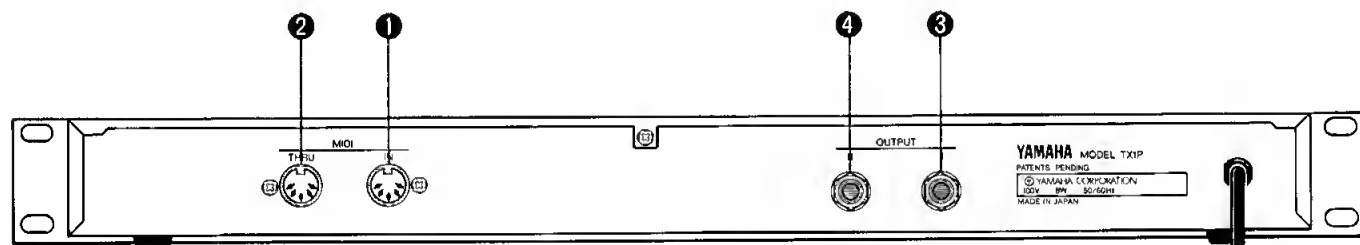
本機出力レベルを調節するためのつまみです。20のPHONES端子に接続したヘッドホンの音量も同時に変わります。

20 PHONES端子

ヘッドホンを接続するための端子で、リアパネルのOUTPUT端子に出力される信号と同じものをモニターできます。ステレオヘッドホンを接続すれば、コーラス効果をステレオの効果として聴くことができます。

※インピーダンス 8Ω～150Ωのヘッドホンをご使用ください。

■リアパネル



●MIDI端子

外部MIDI機器を接続するための端子です。

1 MIDI IN端子

外部MIDI機器からMIDI信号を入力するための端子です。本機は、ここから入力されてくる信号をもとに発音したり、音色が切り替わったりします。外部MIDI機器のMIDI OUT端子と接続してください。

接続には、MIDIキーボードやMIDIシーケンサー、MSXコンピュータなどが考えられます。

2 MIDI THRU端子

MIDI IN端子で受けた外部機器からの信号を、そのまま出力する端子です。

受信した信号と同じものをもう1台のMIDI機器に送りたい場合には、この端子とその機器のMIDI IN端子を接続してください。

●OUTPUT端子

3 OUTPUT I 端子

4 OUTPUT II 端子

本機の音は、これらの端子から出力されます。パワーアンプやキーボードアンプのINPUT端子と接続してください。(これらの端子に直接スピーカーを接続しても鳴りません。)

コーラス機能をONにして使用する場合には、ステレオの効果を得るため、LchおよびRch端子としてステレオ接続されることをお勧めします。なお、コーラス効果OFFの時は、両端子から同じ信号がモノラルで出力されます。※フロントパネルのMASTER VOLUMEを目盛“10”の位置にした場合、これらの端子からは規定出力レベル-10dB、最大出力レベル約+10dBで出力されます。

音を出してみよう

実際に外部機器を接続して音を出してみましょう。

1. 電源OFF

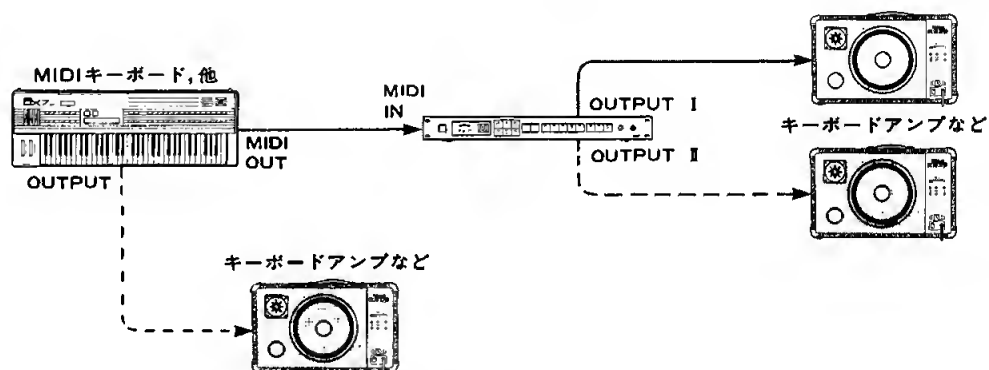
本機および接続する機器のPOWERスイッチを、全てOFFにします。

2. 外部MIDI機器を接続

演奏情報を送り出すための外部MIDI機器を接続します。MIDIケーブルを用い、外部MIDI機器のMIDI OUT端子と、本機のMIDI IN端子を接続してください。接続には、MIDIキーボードやMIDIシーケンサー、MSXコンピュータなどが考えられます。

3. アンプ等を接続

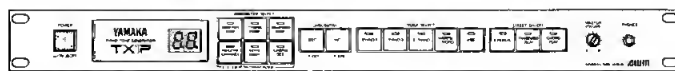
本機のOUTPUT端子に、パワーアンプとスピーカーのペアや、キーボードアンプを接続します。コーラス効果をステレオで得ようとする場合には、ステレオ接続してください。



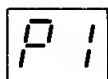
4. 電源ON

外部MIDI機器→本機→キーボードアンプ等の順に、POWERスイッチをONにします。本機のスイッチをONにすると、本機には**前回使用していた際の最後の音色**が呼び出されます。
※ただし、MIDI IN端子にヤマハリモートキーボードKX5を接続した場合には、本機→KX5→キーボードアンプ等の順にPOWERスイッチをONにしてください。

POWERスイッチをONにすると、



前回使用していた際の最後の音色が呼び出され、LEDディスプレイには、その音色名が表示される。たとえばこのように表示される。



5. MIDIチャンネルの設定

外部MIDI機器のMIDI送信チャンネルと、本機のMIDI受信チャンネルを一致させます。なお、本機のMIDI受信チャンネルを“オムニオン”の状態にした時は、外部MIDI機器のチャンネルが何チャンネルであっても受信可能になります。

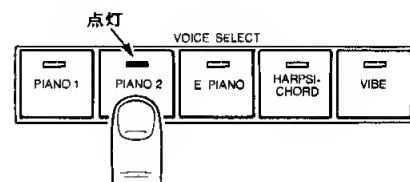
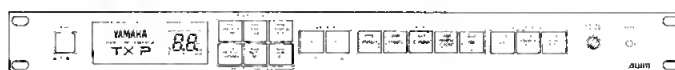
※外部MIDI機器で、本機をオムニオンまたはオムニオフの状態にすることも可能です。

※詳しくは、8ページの“MIDI受信チャンネルの設定”の項をご覧ください。

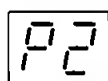
6. 音色の指定

本機の音色を指定します。鳴らしたい音色に該当するVOICE SELECTキーを押してください。

たとえばPIANO 2キーを押すと、PIANO 2キー内のインジケーターが点灯して、PIANO 2の音で鳴るようになる。



また、LEDディスプレイには、ピアノ2が選択されたことを意味する“P2”の文字が次のように表示される。

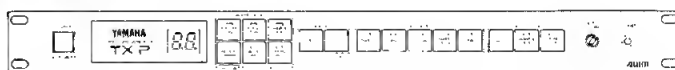


※外部MIDI機器で、本機の音色を切り替えることも可能です。詳しくは、19ページの“プログラムチェンジによる音色切替、エフェクトON/OFF”の項をご覧ください。

7. 音量の調節

本機のMASTER VOLUMEまたはアンプ等のボリュームで、音量を調節します。

音量を調節



※外部MIDI機器で、本機の音量を変更することも可能です。詳しくは、24ページの“コントロールチェンジ”の項をご覧ください。

8. 演奏

MIDIキーボードの場合なら演奏を、MIDIシーケンサーやMSXコンピュータの場合には再生を開始します。すると、指定した音色で鳴ります。

※この他にも、外部MIDI機器で様々なコントロールが可能です。詳しくは、23ページの“MIDIデータフォーマット”の項をご覧ください。

機能の設定と活用

本機の各機能の設定(パラメータ値の変更)方法や、それらの機能の活用方法を紹介します。

■MIDI受信チャンネルの設定

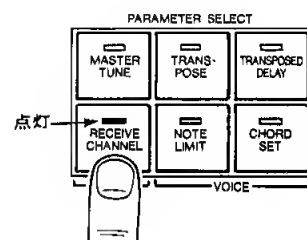
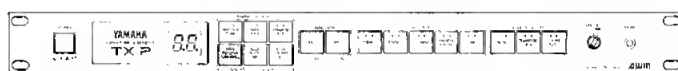
MIDIコントロールを実行する際、必ず行わなければならないのが、本機のMIDI IN端子に接続した機器のMIDI送信チャンネルと、本機のMIDI受信チャンネルを一致させることです。MIDIチャンネルが一致していないと、外部MIDI機器からMIDIメッセージが送られてきても、本機はそれを無視します。

1チャンネルから16チャンネルの範囲内のチャンネル、またはオムニオンを指定できます。

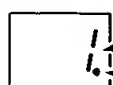
設定方法

- ①RECEIVE CHANNELキーを1回押して、キー内のインジケータを点灯させます。すると、チャンネル変更が可能になります。

RECEIVE CHANNELキーを押して、キー内のインジケータを点灯させる。



するとLEDディスプレイには、現時点まで設定されていたチャンネルナンバーが表示され、チャンネル変更が可能になる。



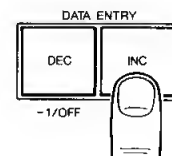
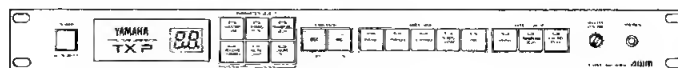
現時点までのチャンネルナンバー

オムニオン/オフの設定がオンになっていると、このようにドットが表示される。オフになっていると表示されない。

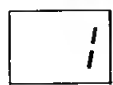
※オムニオン/オフの切り替えをする場合には、本操作から③までの操作は行わずに、③から操作してもかまいません。

- ②チャンネルを指示します。DATA ENTRYキーを押して、希望するチャンネルを表示させてください。

DATA ENTRYキーを押して指定する。



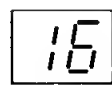
なお、次の範囲で指定できる。



1ch

送信チャンネルが
1chの時受信する。

~



16ch

送信チャンネルが
16chの時受信する。

③オムニオン／オフの切り替えをする場合には、RECEIVE CHANNELキーをもう1回押します。

- オムニオフになっていると……

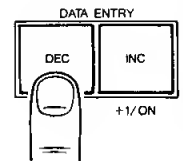
②の操作で表示させたチャンネルのメッセージのみ受信する。

- オムニオンになっていると……

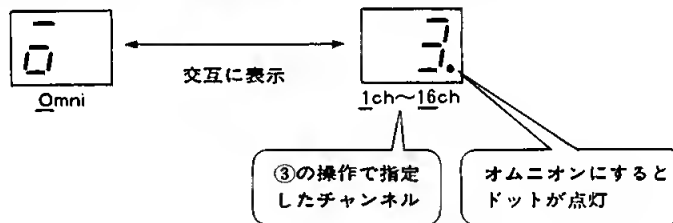
どのチャンネルのメッセージでも受信する。

④オムニオン／オフの切り替えをする場合には、DATA ENTRYキーを押して切り替えます。

DATA ENTRYキーを押して切り替える。オンにするときは、INCキーを押し、オフにするときは、DECキーを押す。



表示は、オムニと②の操作で指定したチャンネルの交互表示になる。



⑤設定を終了します。RECEIVE CHANNELキーをもう1回または2回押して、キー内のインジケータを消灯させます。

※設定したチャンネルおよびオムニオン／オフは、全音色に共通の設定としてメモリーされます。

※外部MIDI機器でオムニオン／オフの切り替えをすることも可能です。

■マスターチューニング

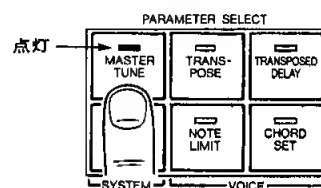
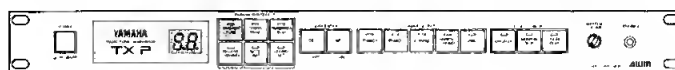
本機を他の楽器とチューニングすることができます。
±50セント（±1/2 半音）の範囲で設定できます。

設定方法

①後述のトランスポーズの機能が働いていないことを確認します。“TRANSPOSE=C3”
になっていれば問題ありません。

②MASTER TUNEキーを押して、キー内のインジケータを点灯させます。すると、
チューニングが可能になります。

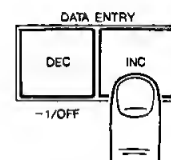
MASTER TUNEキーを押して、キー内のインジケータを点灯させる。



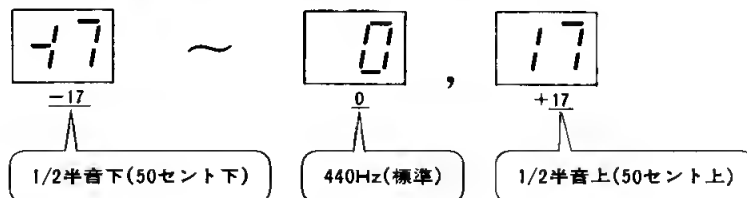
するとLEDディスプレイには、現時点までの値が表示され、チューニングが可能になる。

③チューニングを実行します。外部機器の音と本機の音を両方出して、音程が一致するよう
DATA ENTRYキーを押して値を決めます。チューニングメーターを使用する方法も
考えられます。

DATA ENTRYキーを押して指定する。



なお、次の範囲で指定できる。(1ステップで約3セント可変)



④設定を終了します。MASTER TUNEキーをもう1回押して、キー内のインジケータ
を消灯させます。

※設定した値は、全音色に共通の値としてメモリーされます。

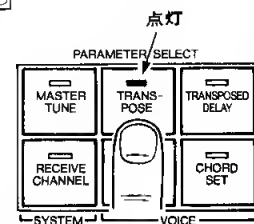
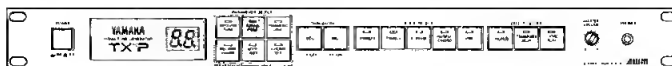
■トランスポーズ

外部MIDI機器の音程と、本機で発音される音の音程をずらす(移調する)ことができます。音色ごとに設定(メモリー)できますから、大変有効です。±1オクターブの範囲で設定できます。

設定方法

- ①TRANSPOSEキーを押して、キー内のインジケータを点灯させます。

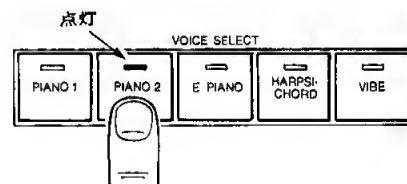
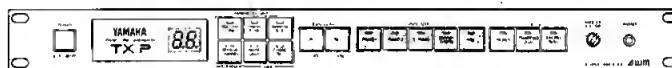
TRANSPOSEキーを押して、キー内のインジケータを点灯させる。



するとLEDディスプレイには、現在選択されている音色の現時点までの設定が表示され、変更が可能になる。

- ②設定を行う音色を指定します。該当する音色のキーを押してください。

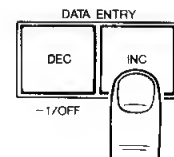
設定を行う音色のキーを押して、キー内のインジケータを点灯させる。



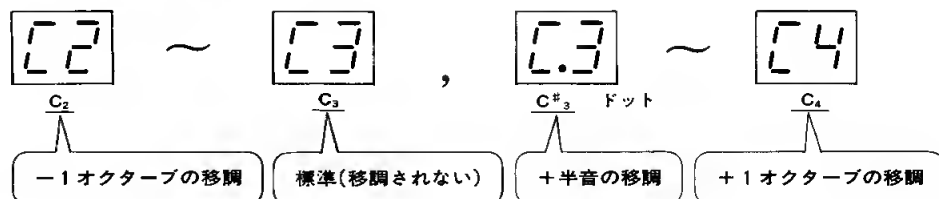
すると、その音色のトランスポーズの設定が可能になる。

- ③選択した音色の移調量を指定します。C₃の音程を基準にして考えますので、C₃のメッセージが送られてきた時、どの音程で発音されるようにするかをDATA ENTRYキーで指定します。半音ステップで可変できますが、LEDディスプレイには、長調名で表示されます。(＃は、ドットで表示されます。)

DATA ENTRYキーを押して指定する。



なお、次の範囲で指定できる。



④他の音色も移調量を設定する場合には、②、③の要領で行います。

⑤設定を終了します。TRANSPOSEキーをもう1回押して、キー内のインジケーターを消灯させます。

■ノートリミット

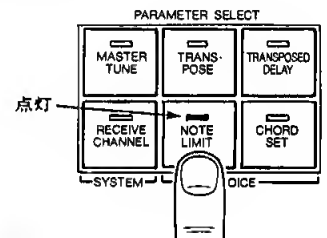
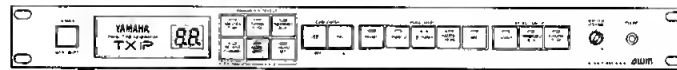
本機で発音される音の音域を制限することができます。最低音と最高音の両方を設定でき、音色ごとに設定（メモリー）できますから、大変有効です。

設定方法

①設定を行う音色を指定します。該当する音色のキーを押してください。

②NOTE LIMITキーを1回または2回押します。1回押すと発音音域の最低音を設定できるようになり、2回押すと発音音域の最高音を設定できるようになります。

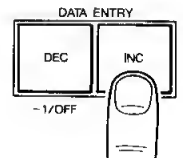
NOTE LIMITキーを押して、設定変更するパラメータの表示にする。



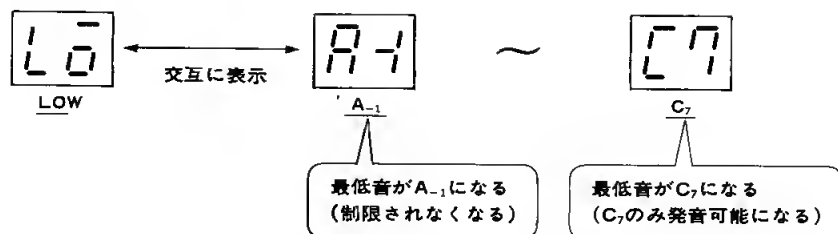
するとLEDディスプレイには、指定した音色の現時点までの設定が表示され、変更が可能になる。

③指定した音色の最低音または最高音を指定します。設定範囲は最低音、最高音共にA₋₁～C₇です。たとえば最高音をC₆にすると、C₆以上は発音されなくなります。また最低音を最高音よりも高くすると、全く発音されなくなります。

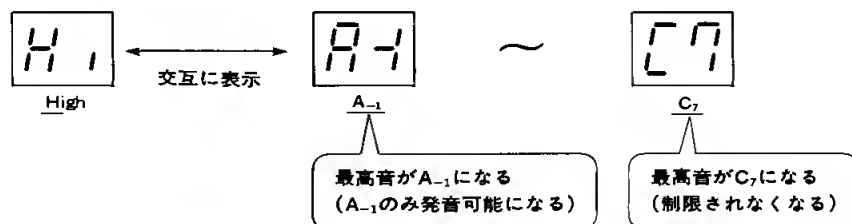
DATA ENTRYキーを押して指定する。



●最低音の表示



●最高音の表示



※ディスプレイには、長調名で表示されます。(＃は10の位のドットで表されます。)

(例) A[＃]₋₁の場合

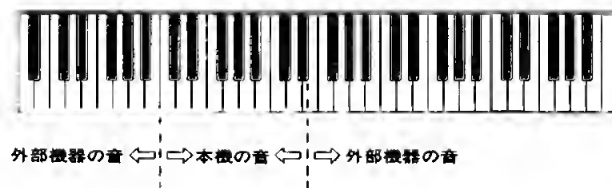


※発音音域を制限しなかった場合、本機はA₋₁～C₇の範囲で発音できる能力があります。
 ※本機だけでなく、外部機器の方でも発音させる場合には、次のような活用方法も考えられます。

(例 1) 本機では高い方の音だけ鳴らす



(例 2) 本機では中央付近の音だけ鳴らす



④もう片方のパラメータも設定する場合には、②から④の要領で行います。

⑤他の音色も発音範囲を制限する場合には、①から③の要領で行います。

⑥設定を終了します。NOTE LIMITキーを数回押して、キー内のインジケータを消灯させます。

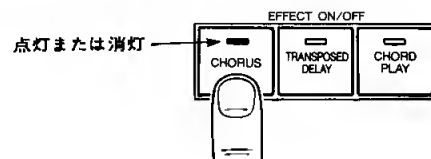
■コーラスプレイ

選択中の音色にステレオのコーラス効果をかけることができます。

設定方法

コーラス効果のON/OFFは、CHORUSキーを押して指定します。キー内のインジケーターが点灯した状態がコーラスONの状態、消灯した状態がOFFの状態です。

CHORUSキーを押して、キー内のインジケーターを点灯または消灯させる。



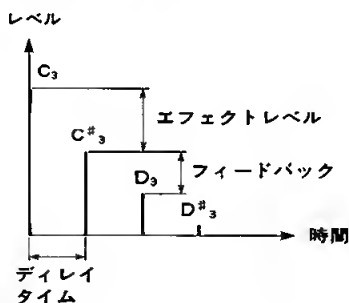
■トランスポーズド ディレイ セット & プレイ

選択中の音色にトランスポーズド ディレイ効果をかけることができます。

効果のかかり具合は、音色ごとに設定(メモリー)できますから、大変有効です(ただしON/OFFは全音色に共通)。

トランスポーズド ディレイ効果は、繰り返し音を発生させる効果です。なお、ピッチ(音程)をずらしながら繰り返し音を発生させることも可能です。

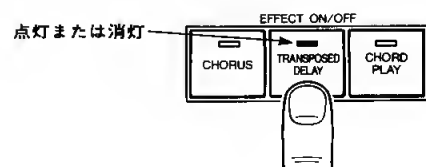
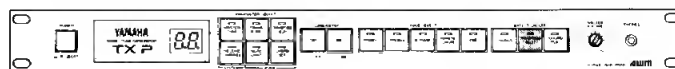
(例) PITCH SHIFTの設定を“+1”にして、C₃を入力した場合



設定方法 (効果のON/OFF)

トランスポーズド ディレイ効果のON/OFFは、EFFECT ON/OFFキー中のTRANSPOSED DELAYキーを押して指定します。キー内のインジケーターが点灯した状態がON、消灯した状態がOFFです。

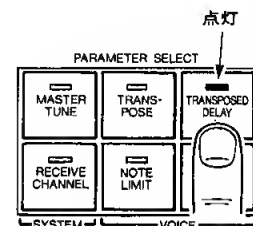
TRANSPOSED DELAYキーを押して、キー内のインジケーターを点灯または消灯させる。



設定方法（効果のかかり具合の変更）

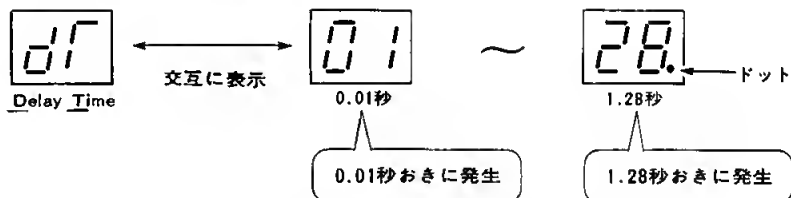
- ① トランスポーズド ディレイ効果の設定をする音色を指定します。
- ② 効果のかけた音を聴きながら設定したい場合には、EFFECT ON/OFFキー中のTRANSPOSED DELAYキーを押して、トランスポーズド ディレイONの状態(キー内のインジケーターが点灯した状態)にします。
- ③ トランスポーズド ディレイ効果のパラメータには4つあります。まずPARAMETER SELECTキー中のTRANSPOSED DELAYキーを数回押して、設定変更するパラメータを指示します。

TRANSPOSED DELAYキーを押して、設定変更するパラメータの表示にする。



● キーを1回押すと……

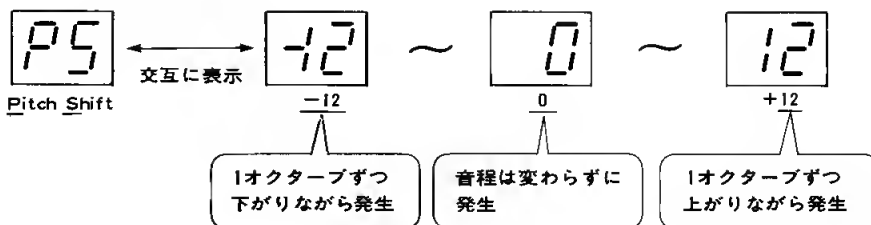
ディレイタイム パラメータの設定が可能になります。値を大きくするほど、より時間が経過してから効果のかかった音が発生するようになります。また、この時間は効果音同士の発音間隔にもなります。



1の位にドットがない時には0.nn秒、
1の位にドットがある時には1.nn秒

● キーを2回押すと……

ピッチシフト パラメータの設定が可能になります。設定は±1オクターブの範囲内、半音ステップで可能です。たとえば値を+1にすると、半音ずつ音程が上がりながら効果音が発生するようになります。

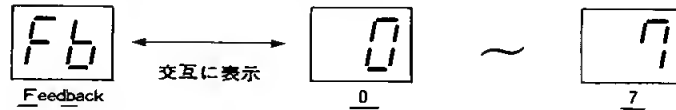


●キーを3回押すと……

フィードバック パラメータの設定が可能になります。値を大きくするほど効果音の発生回数が多くなります。

設定は0～7の範囲で可能です。

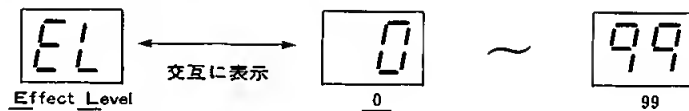
なお効果音の発生回数は、押鍵の強さや時間、エフェクトレベル パラメータの設定によっても変わります。



●キーを4回押すと……

エフェクトレベル パラメータの設定が可能になります。値を大きくするほど効果音のレベルが上がります。

設定は0～99の範囲で可能です。

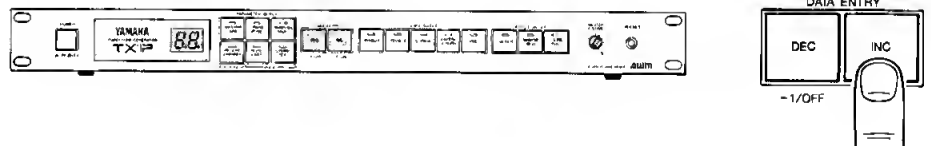


●キーを5回押すと……

設定の状態から、通常のプレイの状態に戻ります。

④表示させたパラメータの値を、DATA ENTRYキーで指定します。

DATA ENTRYキーを押して指定する。



⑤他のパラメータも設定する場合には、③、④の要領で行います。

⑥他の音色も効果のかかり具合を変更する場合には、①および③から⑤の要領で行います。

⑦設定を終了します。PARAMETER SELECTキー中のTRANPOSED DELAY キーを数回押して、キー内のインジケーターを消灯させます。

■コードセット&プレイ

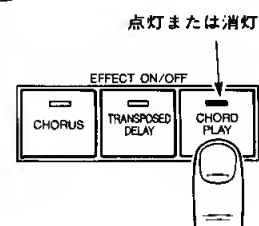
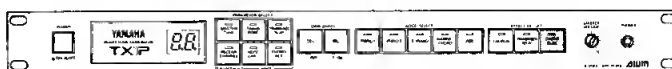
単音で演奏しても和音で鳴るようにできます。和音の設定(メモリー)は音色ごとにできますから、大変有効です(ただしON/OFFは全音色に共通)。

C₃~B₃それぞれに4音までの和音を設定できます。なお、演奏時にC₃よりも低い方の鍵盤やB₃よりも高い方の鍵盤を押した時は、数オクターブ分ずらして発音します。たとえばC₆を押した時は、C₃の和音より3オクターブ高い和音で発音します。

設定方法 (効果のON/OFF)

コード効果のON/OFFは、CHORD PLAYキーを押して指定します。

CHORD PLAYキーを押して、ONまたはOFFにする。



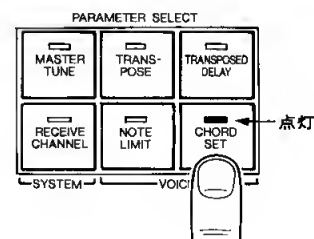
設定方法 (和音の変更)

①和音入力用のキーボードをMIDI IN端子に接続します。

②和音設定する音色を指定します。

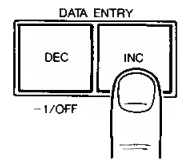
③CHORD SETキーを押します。するとC₃の和音を変更可能になります。

CHORD SETキーを押して、和音変更の表示にする。

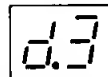


- ④DATA ENTRYキーを押して、和音変更するパラメータを指示します。パラメータは、C₃～B₃の順に表示されます。

DATA ENTRYキーを押して、和音変更するパラメータの表示にする。



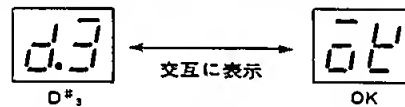
たとえばD₃のパラメータは、次のように表示される。



※和音変更する必要のないパラメータは、設定の必要はありません。設定しなかったパラメータは、前の和音を保持します。

- ⑤指定したパラメータの和音を入力します。キーボードで、和音を実際に押さえてください。

和音を押さえると入力され、パラメータとOKの交互表示になる。
たとえばD₃の場合なら、次のようになる。



※4音までの音数で入力できます。従って1音だけでも可能です。また5音以上押さえた時は、後着の4音が有効となります。

※入力可能な音程の範囲は、C₃～B₃の12音に対して各±2オクターブです。

※和音を間違えて押さえてしまった時は、そのままもう1度押さえ直してください。一旦OKの表示は消え、再入力されて再び交互表示になります。

- ⑥他のパラメータも和音変更する場合は、④、⑤の要領で行います。

- ⑦他の音色も変更する場合には、②および④～⑥の要領で行います。

- ⑧設定を終了します。CHORD PLAYキーを押せば、設定が終了すると共に、コード効果がONされた状態になります。もちろんCHORD SETキーを押して終了することも可能です。

- ⑨CHORD PLAYキー内のインジケータを点灯させ、和音を間違いなく入力できたかどうか、実際に単音で演奏してみます。

※本機の発音音域はA₋₁～C₇です。このため演奏の際、和音の中に発音音域外の音が存在すると、その音はオクターブダウンまたはオクターブアップして発音します。

(例) C₃のパラメータをC₃, E₃, G₃, E₄で登録した場合

- 1) C₄を押すと → C₄, E₄, G₄, E₅
- 2) C₂を押すと → C₂, E₂, G₂, E₃
- 3) C₆を押すと → C₄, E₆, G₆, ~~E₇~~

E₆で発音する。

(E₇は領域外のため、1オクターブ下のE₆で発音する。)

■プログラムチェンジによる音色切替, エフェクトON/OFF

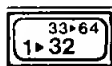
本機のキー操作だけでなく外部MIDI機器によるキー操作でも、本機の音色を切り替えたり、エフェクトをON/OFFすることができます。

これは、MIDIプログラムチェンジメッセージを送受させることによって可能です。つまりMIDIキーボードの場合なら、キーボード自身の任意のナンバーキーを押すことにより可能です。たとえば、ヤマハDX7IIの場合なら次のような要領です。

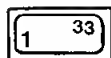
音色を切り替える場合

- ①ボイスブロック・セレクトキーを押して、1～32のボイスブロックの状態（音色No.1～32の音色を選択できる状態）にします。

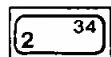
0 ← 消灯させる。



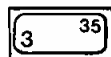
- ②1～32のナンバーキーの内、1～5のキーを押して、本機の音色を切り替えます。それぞれのキーに対して次のように対応します。



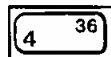
ピアノ 1



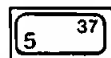
ピアノ 2



エレクトリックピアノ



ハープシコード



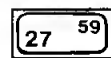
ビブラフォン

エフェクトをON/OFFする場合

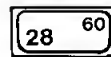
- ①前記の方法またはTX1P自身で、エフェクトをかける音色を指定します。

- ②音色を切り替える場合と同様に、ボイスブロック・セレクトキーを押して、1～32のボイスブロックの状態にします。(すでにこの状態になっていれば操作の必要はありません。)

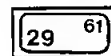
- ③1～32のナンバーキーの内、27～32のキーを押して、エフェクトをONまたはOFFします。それぞれのキーに対して次のように対応します。



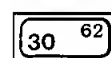
コーラスON



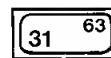
コーラスOFF



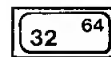
トランスポーズド ディレイOFF



トランスポーズド ディレイON



コードOFF



コードON

※トランスポーズド ディレイ効果とコード効果の両方をONにすることはできません。どちらか片方がONになっている状態で、もう片方をONにすると最初にONにしていた方の効果は自動的にOFFになります。

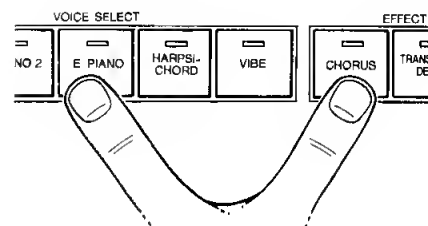
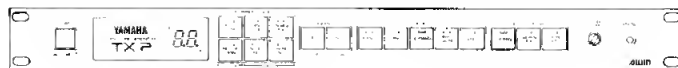
メモリーイニシャライズ

本機ではパネル上で各設定をするだけで設定値等がメモリーされますが、ここに示す操作をすれば、メモリー内容を全く消して、もとの状態（初期設定の状態）に戻すことができます。

イニシャライズの方法

①POWERスイッチを一度OFFにします。

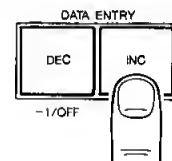
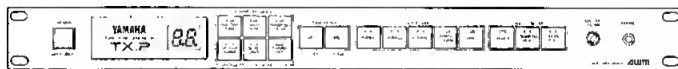
②E PIANOキーとCHORUSキーを同時に押しながら、POWERスイッチをONにします。



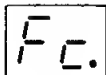
すると、LEDディスプレイに次のように表示されます。



③INCキーを押します。すると、イニシャライズが実行されます。



そしてLEDディスプレイに次のように表示されます。



④もう1度INCキーを押してイニシャライズを終了します。終了すると、通常の状態に戻ります。

—— 初期設定値は次のとおりです。 ——

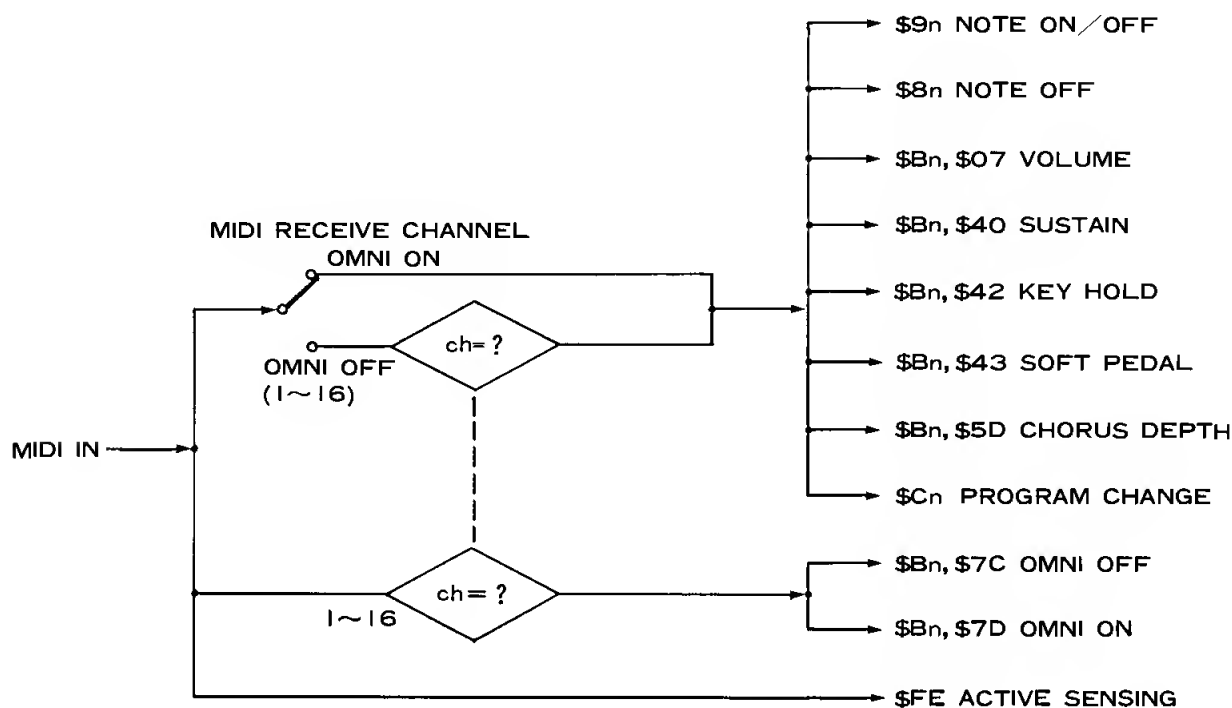
項 目		初 期 値					
		全音色共通	PIANO 1	PIANO 2	E PIANO	HARPSICHORD	VIBE
MIDI R. CH		1 ch					
OMNI ON/ OMNI OFF		OMNI OFF/POLI					
MASTER TUNE		0					
TRANPOSE		<div></div>	C ₃	C ₃	C ₃	C ₃	C ₃
NOTE LIMIT	LOW		A ₋₁	A ₋₁	A ₋₁	A ₋₁	A ₋₁
	HIGH		C ₇	C ₇	C ₇	C ₇	C ₇
CHORUS ON/OFF		OFF					
TRANPOSED DELAY	ON/OFF	OFF					
	DELAY TIME	<div></div>	0.05	0.03	0.1	0.04	0.14
	PITCH SHIFT		+ 7	-12	+ 7	0	0
	FEEDBACK		0	0	7	7	4
	EFFECT LEVEL		99	80	99	64	75
CHORD SET	ON/OFF	OFF					
	C ₃	<div></div>	C ₁	C ₁	C ₃	C ₂	C ₃
			G ₃	E ₂	E ₃	C ₃	G ₂
			E ₄	G ₂	G ₃		
			C ₅	C ₃	B ₃		B [#] ₃
	C [#]		C [#] ₁	C [#] ₁	G ₂	C [#] ₂	C [#] ₃
			G ₃	F ₂	C [#] ₃	C [#] ₃	G [#] ₂
			F ₄	G [#] ₂	E ₃		
			B ₄	C [#] ₃	A		
	D		D ₂	D ₁	C ₃	D ₂	D ₃
			A ₃	F ₂	D ₃	D ₃	A ₂
			F ₄	A ₂	F ₃		
			C ₅	D ₃	A ₃		
D [#]	D [#] ₁		D [#] ₁	F [#] ₂	D [#] ₂	D [#] ₃	
	A ₃	F [#] ₂	C ₃	D [#] ₃	A [#] ₂		
	F [#] ₄	A ₂	D [#] ₃				
	C ₅	D [#] ₃	A ₃				
E	E ₁	E ₁	G ₂	E ₂	E ₃		
	G ₃	G ₂	D ₃	E ₃	B ₂		
	D ₄	B ₂	E ₃				
	B ₄	E ₃	B ₃				
F	F ₁	F ₁	A ₂	F ₂	F ₃		
	E ₃	A ₂	D ₃	F ₃	C ₃		
	C ₄	C ₃	F ₃				
	A ₄	F ₃	C ₄				
F [#]	F [#] ₁	F [#] ₁	A ₂	F [#] ₂	F [#] ₃		
	D [#] ₃	A ₂	D [#] ₃	F [#] ₃	C [#] ₃		
	C ₄	C ₃	F [#] ₃				
	A ₄	F [#] ₃	C ₄				
G	G ₁	G ₁	B ₂	G ₂	G ₃		
	F ₃	B ₂	F ₃	G ₃	D ₃		
	D ₄	D ₃	G ₃				
	B ₄	G ₃	D ₄				
G [#]	G [#] ₁	G [#] ₁	F [#] ₂	G [#] ₂	G [#] ₃		
	F [#] ₃	C ₃	D [#] ₃	G [#] ₃	D [#] ₃		
	D [#] ₄	D [#] ₃	G [#] ₃				
	C ₅	G [#] ₃	C ₄				
A	A ₁	A ₁	A ₂	A ₂	A ₃		
	G ₃	C ₃	E ₃	A ₃	E ₃		
	E ₄	E ₃	G ₃				
	C ₅	A ₃	C ₄				
A [#]	A [#] ₁	A [#] ₁	A [#] ₂	A [#] ₂	A [#] ₃		
	F ₃	D ₃	F ₃	A [#] ₃	F ₃		
	D ₄	F ₃	G [#] ₃				
	G [#] ₄	A [#] ₃	D ₄				
B	B ₁	B ₁	A ₂	B ₂	B ₃		
	F ₃	D ₃	F [#] ₃	B ₃	F [#] ₃		
	D ₄	F ₃	B ₃				
	A ₄	B ₃	D [#] ₄				

トラブル対処法

症 状	原 因	処 置
音が出ない。	接続が間違っている。	接続を確認してください。
	ボリュームが下がっている。	各機器のボリュームを確認してください。
	MIDIチャンネルが一致していない。	MIDIチャンネルを一致させるか、または本機をオムニオンの状態にしてください。
	MIDIケーブルの不良	他のケーブルを接続してください。
	ノートリミット機能が働いている。	設定を確認してください。
	本機の発音音域外の音ではありませんか？	発音音域はA-1～C7です。
	本機または外部MIDI機器でエラーが発生した。	一度POWERスイッチをOFFにしてみてください。
弾いた音と違う音程で発音される。	トランスポーズ機能が働いている。	設定を確認してください。
パラメーターを音色ごとに設定できない。	マスターチューニングおよびMIDI受信チャンネル、エフェクトON/OFFのパラメータではありませんか？	それらのパラメータ設定値は、全音色に共通です。
トランスポーズドディレイ効果とコード効果を同時に使えない。	—————	その2つの効果は同時に使えません。
押鍵に強弱をつけても発音される音に強弱がつかない。	キーベロシティ機能のない機器を使用している。	—————
	外部機器のキーベロシティの設定が下がっている。	設定値を確認してください。
コード設定したが、プレイの際に違う和音で発音される。	5音以上押さえている。	4音以内で設定できます。
	設定した時と同じ設定になっていない。	設定後、トランスポーズ等の設定を変更した。
	構成音の中に、本機の発音音域外の音が含まれている。	発音音域外の音は、1オクターブ下または上の音となって発音されます。
ステレオで発音されない。	—————	コーラス効果のみステレオで処理されます。
トランスポーズドディレイ効果がかけられない。	—————	設定値を確認してください。
音が鳴りっ放しで消えない。	キーオンの信号に対して、キーオフの信号が送られてこない。	音色を選び直してください。
外部機器で音色切り替えの操作をしたが、本機の音色が切り替わらない。	音色No.1～5以外の音色を選んだ。	音色No.1～5以外の音色を選んだ時は、本機側では無視されます。
	外部機器がPLAYモードになっていない。	PLAYモードにして、もう一度行ってください。
外部機器でコントロールチェンジの操作をしたが、本機が対応しない。	コントロールNo.が、本機の仕様と異なる。	両機器のMIDI仕様を確認してください。

MIDIデータフォーマット

1. 受信条件



2. 受信データ

アクティブセンシング以外のメッセージは、MIDI RECEIVE CHANNELで設定したチャンネルで受信可能です。なおMIDI THRU端子からは、受信したメッセージがそのまま送り出されます。

2-1 チャンネルインフォメーション

1) チャンネルボイスメッセージ

① ノートオン/オフ

ノートNo.によって発音の音程が変わり、ベロシティによって発音の音量が変わります。

ステータス	1 0 0 1 n n n n (9 n H)	n = 0 (チャンネルナンバー1) ~ 15 (チャンネルナンバー16)
ノートNo	0 k k k k k k k	k = 21 (A ₁) ~ 108 (C ₇)
ベロシティ	0 v v v v v v v	v = 1 ~ 127 v = 0 (ノートオフ), 1 ~ 127 (ノートオン)

② ノートオフ

ノートオンメッセージの終了を判断するうえで必要なメッセージです。

ステータス	1 0 0 0 n n n n (8 n H)	n = 0 (チャンネルナンバー1) ~ 15 (チャンネルナンバー16)
ノートNo	0 k k k k k k k	k = 21 (A ₁) ~ 108 (C ₇)
ベロシティ	0 v v v v v v v	v は無視

Function ...		Recognized	Remarks
Basic	Default	1 - 16	memorized
Channel	Changed	1 - 16	
Mode	Default	3	
	Messages	OMNI ON/OFF	
	Altered	x	
Note		21 - 108	
Number	True voice	21 - 108	
Velocity	Note ON	o v=1-127	
	Note OFF	x	
After	Key's	x	
Touch	Ch's	x	
Pitch Bender		x	
	7	o	Volume
	64	o	Sustain
Control	66	o	Key hold
	67	o	Soft pedal
Change	93	o	Chorus
Prog		o 0 - 4, 26 - 31	*1
Change	True #	0 - 4	
System Exclusive		x	
System	Song Pos	x	
	Song Sel	x	
Common	Tune	x	
System	Clock	x	
Real Time	Commands	x	
Aux	Local ON/OFF	x	
	All Notes OFF	o (124-125)	
Mes-	Active Sense	o	
sages	Reset	x	
Notes: *1 = program number 26 - 31 are assigned as follows.			
	26 : chorus off	27 : chorus on	
	28 : transposed delay off	29 : transposed delay on	
	30 : chord play off	31 : chord play on	
Mode 1	OMNI ON, POLY	Mode 2 : OMNI ON, MONO	o : Yes
Mode 3	OMNI OFF, POLY	Mode 4 : OMNI OFF, MONO	x : No

blank chart

メモ用にお使いください。

YAMAHA

TX1P

USER PROGRAMMING TABLE

Date :

Programmer :

項 目		初 期 値					
		全音色共通	PIANO 1	PIANO 2	E PIANO	HARPSICHORD	VIBE
MIDI R. CH							
OMNI ON/ OMNI OFF							
MASTER TUNE							
TRANPOSE							
NOTE LIMIT	LOW						
	HIGH						
CHORUS ON/OFF							
TRANPOSED DELAY	ON/OFF						
	DELAY TIME						
	PITCH SHIFT						
	FEEDBACK						
	EFFECT LEVEL						
CHORD SET	ON/OFF						
	C						
	C#						
	D						
	D#						
	E						
	F						
	F#						
	G						
	G#						
	A						
	A#						
	B						

サービスについて

本機の保証期間は、保証書によりご購入から1ヶ年で
す。(現金、ローン、月賦などによる区別はございませ
ん。)また保証は日本国内にてのみ有効といたします。

●保証書

保証書をお受け取りのときは、お客さまのご住所、お
名前、お買い上げ月日、販売店名などを必ずご確認ください。
無記名の場合は無効になりますので、くれぐ
れもご注意ください。

●保証書は大切にしましょう！

保証書は弊社が、本機をご購入いただいたお客さまに
ご購入の日から向う1カ年間の無償サービスをお約束
申しあげるものですが、万一紛失なさいますと保証期
間中であつても実費を頂戴させていただくことになり
ます。万一の場合に備えて、いつでもご提示いただけ
ますように充分ご配慮のうえで保管してください。ま
た、保証期間が切れましてもお捨てにならないでくだ
さい。後々のサービスに際しての機種判別や、サー
ビス依頼店の確認など便利にご利用いただけます。

●保証期間中のサービス

保証期間中に万一故障が発生した場合、お買上げ店に
ご連絡頂きますと、技術者が修理・調整致します。こ
の際必ず保証書をご提示ください。保証書なき場合に
はサービス料金を頂戴場合もあります。又お買上げ
店より遠方に移転される場合は、事前にお買上げ店あ
るいは電音サービス拠点にご連絡ください。移転先に
おけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、
引続き保証期間中のサービスを責任をもって行なうよ
う手続き致します。

満1カ年の保証期間を過ぎますとサービスは有料とな
りますが、引き続き責任をもってサービスをさせてい
ただきます。なお、補修用性能部品の保有期間は最低
8年となっています。そのほかご不明の点などござい
ましたら、下記のヤマハサービス網までお問い合わせく
ださい。

■YAMAHA 電気音響製品サービス拠点 (お預り修理窓口)

東京電音サービスセンター 〒211 川崎市中原区木月1184
TEL (044) 434-3100
新潟電音サービスステーション 〒950 新潟市万代1-4-8(シルバーホールビル2F)
TEL (025) 243-4321
大阪電音サービスセンター 〒565 吹田市新岸屋下1-16(千里丘センター内)
TEL (06) 877-5262
四国電音サービスステーション 〒760 高松市丸亀町8-7(ヤマハ高松店內)
TEL (0878) 51-7777、22-3045
名古屋電音サービスセンター 〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2
(ヤマハ名古屋流通センター3F)
TEL (052) 652-2230
九州電音サービスセンター 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL (092) 472-2134
北海道電音サービスセンター 〒065 札幌市東区本町1条9丁目3番地
TEL (011) 781-3621
仙台電音サービスセンター 〒983 仙台市青葉区5丁目-7(郵政共同配送センター3F)
TEL (022) 236-0249
広島電音サービスセンター 〒731 01 広島市安佐南区紙屋町西原2-27-39
TEL (082) 874-3787
浜松電音サービスセンター 〒435 浜松市上西町911
TEL (0534) 65-6711
本
社
電
音
サ
ー
ビ
ス
部 〒435 浜松市上西町911
TEL (0534) 65-5195

※住所及び電話番号は変更になる場合があります。

ヤマハ株式会社 LM事業本部

デジタル録音機 〒430 浜松市中区町10-1
TEL 0534(60) 2445
国内営業部 〒150 渋谷区道玄坂2-10-7 新大塚ビル3F
TEL 03(476)1521
東京事業所 〒104 東京都中央区銀座7-11-3 天島ビル
TEL 03(574)8592
大阪事業所 〒542 大阪市南区南船場3-12-9
心斎橋プラザビル東館
TEL 06(252)5231
名古屋営業所 〒460 名古屋市中区錦1-18-28
TEL 052(201)5145
九州営業所 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL 092(472)2155
札幌営業所 〒064 札幌市中央区南十条西1丁目 ヤマハセンター
TEL 011(512)6113
仙台営業所 〒980 仙台市大町2-2-10
TEL 022(222)6146
広島営業所 〒730 広島市中区紙屋町1-1-18
TEL 082(244)3744